

「プランニング」は特徴の少ないアウトドアでスピーディーかつ確実なナビゲーションを行なう際に不可欠な発想である。技術指導の締めくくりとして、プランニングの考え方と練習法について解説する。

■プランニングとは

ラフ0とファイン0を習得したら、次の段階はプランニングである。オリエンテーリングでのプランニングとは、ラフ0とファイン0の使い分けや、現在地を把握する場所を予め地図から読み取ることを言う。

初級者では現在地を常に把握することが強調される。しかし上級へと進むとスピードが重要な要素になる。また、線状特徴物から特徴の少ない場所を進むレグが増え、全ての場所での現在地把握が可能ではなくなる。従って、曖昧になった現在地をどこで回復させるかを予め設定しておくことが不可欠になる。これがプランニングである。

プランニング時に決めるべきことは、現在地の把握を確実にこなす場所（チェックポイント）、その間での移動に必要な情報（距離、方向や周囲の特徴）、そして使うべき技術である。

■プランニングの実際

図1 aのようなレグでのプランニングを行なうと、以下ようになる。

★ほぼ真西に送電線に沿って約350m小径を進む（距離、方向、特徴）。次の送電線の鉄塔（チェックポイント）を見たら、そこからコンパス直進で100m進む（使うべき技術）。コントロールは最初の大きな凹地を右手に見た次の尾根の先端（特徴）。

最初の送電線鉄塔までがラフなオリエンテーリングである。送電線や道に沿っており、鉄塔という確実に現在地が把握できる特徴があるので、現在地を細かく把握しなくても、間違えることのないラフ0の区間である。そこから先は特徴の少ない森の中を進むため、ファインなナビゲーションが必要されている。ルートやその特徴だけでな

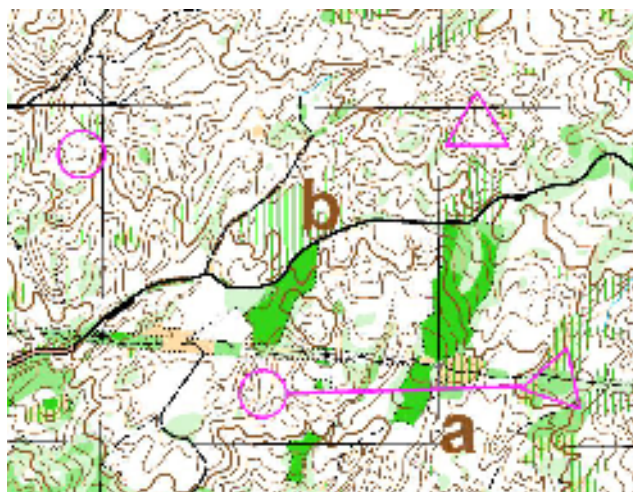
く、技術的な対応の違いやそれを切り替えるチェックポイントを明確に読み取ることがポイントである。

図1 bのレグでは、プランニングは難しくなる。鉄塔のように黙っていても目に入ってくる目立つ特徴がないので、自分にとって確実に分かる特徴を意識的に地図から読み取る必要があるからである。ここにオリエンテーリング技術の最も難しく、かつ最も創造性を要求される部分がある。世界選手権のミドル種目で3連覇を成し遂げたフランスのチェリ・ジョルジョは、プランニングに磨きをかけることでスピーディーで確実なオリエンテーリングを可能にし、ミドルでの成功を収めた。

図2はこのようなプランニングの例である。ここでは図によって情報を描き出す方法を示す。

★約500m西北西方向に進むと北東-南西に向かう斜面が現れる。その斜面に沿って南西に進むと右手に小さな沢、正面に沢が続いて現れる。正面方向の沢に沿って少し下ると、よりはっきりした沢が正面方向に現れる。その頭から西南西の方向に約50m進むとコントロール。

人工的な目立つ特徴物はないので、地形的に特徴的なものを把握することが必要になる。北西側に引かれた茶色の太い線は等高線が数本平行して走っており、それまでの区間とは違い、はっきりした斜面が立ち上がっている。直接コントロールを目指せば距離は短くなるが、明確な特徴物がないのでロストの危険性が大きくなる。多少遠回りでも、はっきりした斜面を捉え、それをたどってコントロールに近づくことでロストの危険性を回避できる。このようなプランニングは「エイミングオフ」として知られている。興味深いことに、ミクロネシアで島影一つない海で長距離航海する人々は同じような発想で遭難を回避している。



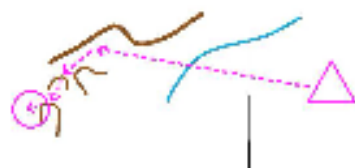
▲図1：a bそれぞれのレグでのプランニングをしてみよう。

はっきりした傾斜にそって南西に進むことで右手および正面に小さな沢が現れる。ここで現在地が確定する。このあたりからがファイン0となる。小さな沢を計3つ確認するが、最後の沢は等高線が2本重なったのはっきり分かる沢である。その頭を捉えて、最後はコンパスで方向、歩測で距離を確認してコントロールに至る。

■プランニング練習の方法

プランニングの練習では、上に示したように言葉で書き出す方法も概念図を描く方法もある。最初は意識して情報を抜き出すためにも言葉を使った方がよいだろう。情報を取り出すという考えに慣れたら、より実践的な図を描く方法に移る。図を描くレベルに至ったら、地図と描く用紙を同時に見るのではなく、図を描く時には地図を伏せる（または見ない）ようにする。これによって、地図から得た情報をイメージの形で一度頭の中に入れるという、より実践的な情報の取り出し方になる。また1回あたりの時間をできるだけ短くすることで（望ましいのは、実際のランニングの時と同じような2-3秒）、さらに実践的になる。

(村越 真)



▲図2：図1 bに対するプランニング